

9. 仕事の完成の学習または理解

A 単純な仕事(温かい飲み物を用意するなど)を正常に完了する方法を学ぶことができないか、理解することができない;

B 請求者が単純な仕事を正常に完了する方法を学習し理解する前に、同じことを2回以上デモンストレーションを見るが必要であり、しかも、次の日にその仕事を完了する方法についてさらにデモンストレーション受けなければ、その仕事を正常に完了することができない
あるいは、

C 重度の気分障害又は行動障害のために、(A)または(B)で言及されたことのどちらも行うことができない

10. 生活行動

A すべての生活行動(計画を立てる、組織する、問題を解決する、作業に優先順位をつける、作業を変更するなど)を意味する)を始めたり継続することができない;

B 申請者の横で、他人による言葉による日常的な促しを求めなければ生活行動を始めたり継続することができない;

あるいは、

C 重度の気分障害又は行動障害のために、申請者の横で、他人による言葉による日常的な促しを求めなければ生活行動を始めたり継続することができない。

11. コミュニケーション

A 請求者は、以下のコミュニケーションのすべてを用いることができない:

- i) 話す(知らない人が理解できるくらいのレベル);
- ii) 書く(知らない人が理解できるくらいのレベル);
- iii) タイピング(知らない人が理解できるくらいのレベル);
- iv) レベル3の英国手話に相当するレベルの手話;

B 重度の気分障害又は行動障害のために、(A)で言及されるコミュニケーションのすべてを用いることができない;

C 請求者は、言語的または非言語的コミュニケーションにおいて誤解されるため、日々苦悩する;

あるいは、

D 重度の気分障害又は行動障害のために、現実から分離してしまい、他人に自分の意志を伝えることができない。

資料 4 評価なしで労働関連活動能力が制限されているとみなされる時

○進行性の疾病を患っており、6 ヶ月（すなわち、病状が末期的）以内に死亡することが合理的に予想されることができる；

○静脈内、腹膜内、クモ膜下腔内の化学療法の治療を受けている、あるいは、その処置から回復期にあり、ジョブセンタープラスが、労働制限があることを納得している；

○特定の疾病または身体的、精神的な障害があり、もし、職業関連活動能力に制限がないとわかれば、だれかの精神的または身体的な健康に危険を及ぼすとき；

○妊娠しており、労働を抑えなければ、自分や胎児の健康に深刻な危険があると思われる場合

資料5 ESAの週額（2008年10月から）

<p>抛出处 ESA</p> <p>評価期間</p> <p>25歳未満 £47.95</p> <p>25歳以上 £60.50</p> <p>主期間</p> <p>基本手当 £60.50</p> <p>労働関連活動手当 £24.00</p> <p>支援手当 £29.00</p>	<p>所得連動 ESA</p> <p>定額給付</p> <p>単身</p> <p>25歳未満, 評価期間 £47.95</p> <p>25歳未満, 評価期間後 £60.50</p> <p>25歳以上 £60.50</p> <p>ひとり親</p> <p>18歳未満, 評価期間 £47.95</p> <p>18歳未満, 評価期間後 £60.50</p> <p>18歳以上 £60.50</p> <p>夫婦</p> <p>二人とも18歳以上 £94.95</p> <p>追加給付</p> <p>労働関連活動手当 £24.00</p> <p>支援手当 £29.00</p> <p>付加給付</p> <p>重度障害</p> <p>単身 £12.60</p> <p>夫婦 £18.15</p> <p>最重度障害</p> <p>単身 £50.35</p> <p>夫婦(一人有資格) £50.35</p> <p>夫婦(二人とも有資格) £100.70</p> <p>年金受給者</p> <p>単身, 労働関連活動グループ £39.55</p> <p>単身, 支援グループ £34.55</p> <p>単身, 評価期間 £63.55</p> <p>夫婦, 労働関連活動グループ £70.40</p> <p>夫婦, 支援グループ £65.40</p> <p>夫婦, 評価期間 £94.40</p> <p>介護者 £27.75</p>
--	---

資料6 旧個人能力評価 [身体障害]

各分類を合計して15ポイント以上になると労働能力がないと評価される。

1. 通常用いている歩行杖または他の機器を用いて平地を歩くこと
 - ・まったく歩くことができない 15
 - ・繰り返し止まったり、ひどい不快感を感じずには、数歩以上を歩くことができない 15
 - ・繰り返し止まったり、ひどい不快感を感じずには、50メートル以上を歩くことができない 15
 - ・繰り返し止まったり、ひどい不快感を感じずには、200メートル以上を歩くことができない 7
 - ・繰り返し止まったり、ひどい不快感を感じずには、400メートル以上を歩くことができない 3
 - ・繰り返し止まったり、ひどい不快感を感じずには、800メートル以上を歩くことができない 0
 - ・歩くことには不自由がない。 0

2. 階段を上り下りすること
 - ・1段を上り下りできない 15
 - ・連続する12段を上り下りできない 15
 - ・連続する12段を休むことなく手すりをもたずに上り下りできない 7
 - ・連続する12段を手すりを持たずに上り下りできない 3
 - ・連続する12段を横向きに、または、1段ずつ上り下りできない 3
 - ・階段を上り下りするのに問題はない 0

3. 高い背もたれの袖のない椅子に座ること
 - ・楽に座ることができない 15
 - ・椅子から立ち上がる前に、不快の程度が大きいために、高い背もたれの袖のない椅子に10分以上座っていることができない 15
 - ・不快の程度が大きいために、動くことなく10分以上座っていることができない 7
 - ・不快の程度が大きいために、動くことなく1時間以上座っていることができない 3
 - ・不快の程度が大きいために、動くことなく2時間以上座っていることができない 0
 - ・座ることには、問題がない。 0

4. 他人による身体的な援助や、杖以外の補助具なしで、立っていること
 - ・援助なしには立ってられない 15
 - ・1分以上立てないで座ってしまう 15
 - ・10分以上立てないで座ってしまう 15
 - ・30分以上立てないで座ってしまう 7
 - ・10分以上立てないで動き回ってしまう 7
 - ・30分以上立てないで動き回ってしまう 3
 - ・立っていることに問題はない 0

5. 他人の助けなしに、高い背もたれの袖のない椅子から立ち上がる

- ・座った状態から立ち上がれない 15
- ・何かを握らずに座った状態から立ち上がれない 7
- ・何かを握っても、座った状態からときどき、立ち上がれない 3
- ・椅子から立ち上がるのに問題ない 0

6. 腰を折ること、又は、ひざまづくこと

- ・腰を折り、ひざをもち、もう一度立ち上がることができない 15
- ・腰を折り、ひざまづき、あるいは、かがんで、床から 15cm のすくい棚にある軽いもの（例えば紙）を拾い上げ、そして、それを、他人の援助なしに、もう一度まっすぐに置きなおすことができない 15
- ・腰を折り、ひざまづき、あるいは、かがんで、床から 15cm のすくい棚にある軽いもの（例えば紙）を拾い上げ、そして、それを、他人の援助なしに、もう一度まっすぐに置きなおすことが、ときどきできない 3
- ・腰を折ったり、ひざまづくことは、問題がない 0

7. 手の巧緻性

- ・どちらの手でも本のページをめくることができない 15
- ・どちらの手でもシンクのタップを回したり、レンジのダイヤルを調整できない 15
- ・どちらの手でも直径 2.5cm のコインを拾うことができない 15
- ・ペンまたは鉛筆を身体的に使うことができない 15
- ・ひもまたは糸で蝶結びをできない 10
- ・一方の手ではシンクのタップを回したり、レンジのダイヤルを調整できないが、別の手ではできる 6
- ・一方の手では直径 2.5cm のコインを拾うことができないが、別の手ではできる 6
- ・手の巧緻性には問題がない 0

8. 上半身と腕を用いて拾い上げ、動かしたり渡したりする（パート 1 で指定される他の全ての活動を除外する）

- ・どちらの手でも、ペーパーバックの本を拾い上げられない 15
- ・どちらの手でも、0.5 リットル入りの牛乳カートンを持ち上げ、運ぶことができない 15
- ・どちらの手でも、容量 1.7 リットルのシチュー鍋や牛乳カートンを持ち上げ、注ぐことができない 15
- ・どちらの手でも、2.5kg のジャガイモ袋を持ち上げられない 8
- ・一方の手は、0.5 リットル入りの牛乳カートンを持ち上げ、運ぶことができないが、別の手ではできる 6
- ・一方の手は、2.5kg のジャガイモ袋を持ち上げ、運ぶことができないが、別の手ではできる 0

- ・持ち上げて運ぶことには問題がない 0

9. 手を伸ばすこと

- ・コートやジャケットの一番上のポケットに何かを入れるように、どちらの腕も上げることができない 15
- ・帽子をかぶるように、どちらの腕も上げることができない 15
- ・何かに手を届かせるように頭の上に、どちらの腕も上げることができない 15
- ・帽子をかぶるように、一方の腕は上げることができないが、他方の腕は上げることができる 8
- ・何かに手を届かせるように頭の上に、一方の腕は上げることができないが、他方の腕は上げることができる 0
- ・手を伸ばすことに問題はない 0

10. 話すこと

- ・まったく話すことができない 15
- ・話したことを、知り合いでない人は理解できない 15
- ・知り合いでない人は、話を理解するのに大変苦勞する 10
- ・知り合いでない人は、話を理解するのに少し苦勞する 8
- ・上記のどれにも、あてはまらない 0

11. 通常装着している補聴器または他の機器を用いて聞くこと

- ・まったく聞くことができない 15
- ・音量を大きくしないとテレビ番組が聞き取れない 15
- ・静かな部屋で大声で話している人の話を、十分にはっきりと聞くことができない 15
- ・静かな部屋で、普通の声で話している人の話を聞くことができない 10
- ・繁華街で大声で話している人の話を、聞くことができない 8
- ・聞くことに問題はない 0

12. 通常用いている眼鏡または他の補助機器を用いて、日光または明るい電灯のもとでの視覚

- ・光がわからない 15
- ・部屋の家具の形が見えない 15
- ・20cm離れたところの16ポイントの印刷文字を読むことができるほど見えない 15
- ・最低5メートル離れたところにいる友人が十分わかる程の見えない 12
- ・少なくとも15メートル離れたところの友人がわかるほど見えない 8
- ・視覚には問題がない 0

13. 排泄（遺尿（夜尿症）以外）

- ・腸からの排泄を自発的に制御できない 15

- ・膀胱からの管理を自発的に制御できない 15
- ・少なくとも週1回腸からの排泄を制御できなくなる 15
- ・少なくとも月1回腸からの排泄を制御できなくなる 15
- ・ときどき腸からの排泄を制御できなくなる 9
- ・少なくとも月1回以上膀胱からの排泄を制御できなくなる 3
- ・ときどき膀胱からの排泄を制御できなくなる 0
- ・排泄に問題ない0

14. 目覚めている間は、てんかんまたはてんかん様発作がなく、意識を保っていること

- ・少なくとも1日に1回、意識の喪失又は変性意識の非自発的な症状がある。 15
- ・少なくとも週に1回、意識の喪失又は変性意識の非自発的な症状がある。 15
- ・少なくとも月に1回、意識の喪失又は変性意識の非自発的な症状がある 15
- ・評価前の6ヵ月間に少なくとも、二度の意識喪失や変性意識の非自発的な症状がある。その結果、認識の混乱や集中力を失う 12
- ・評価前の6ヵ月間に少なくとも、1回の意識喪失や変性意識の非自発的な症状がある。その結果、認識の混乱や集中力を失う 8
- ・評価前の3年間に少なくとも、1回の意識喪失や変性意識の非自発的な症状がある。その結果、認識の混乱や集中力を失う 0
- ・意識には問題がない 0

[参考資料]

第8回障害統計に関するワシントングループ会議(Eighth Meeting of the Washington Group on Disability Statistics)参加報告

浦和大学総合福祉学部 寺島彰

日時 2008年10月29日-30日

場所 フィリピン、マンダルユング、エドサ・シャングリラ・ホテル
(EDSA Shangri-la Hotel, Mandaluyong, Philippines)

参加者 オーストラリア、バングラデシュ、ブラジル、カンボジア、カナダ、フィジー、フランス、インド、インドネシア、イスラエル、イタリア、アイルランド、日本、ケニア、モンゴル、フィリピン(16)、モルジブ、シンガポール、南アフリカ、スリランカ、スペイン、オマーン、タンザニア、ウガンダ、アラブ首長国連邦、アメリカ(3)、ベトナム、ジンバブエ、UNSCAP(3) 29カ国48人。

10月29日(水)

8:00-9:00 参加登録

セッション1 開会式

(1)9:00-9:15 歓迎と開会のあいさつ

ロムノ・A・ピロラ (Romulo A. Virola)

フィリピン国立統計調整局(NSCB)事務局長(Secretary-General, National Statistical Coordination Board (NSCB), Philippines)

(2)9:15-9:45 第7回会議までに進展した内容と第8回会議の議題について(資料1、2)

ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

[内容]

○2002年2月にワシントングループ(WG)が作られ、これまで、会議が7回開催された。それぞれの会議では、次の合意がなされた。

第1回(2002年2月ワシントン、USA)ICFの枠組みを活用して、国際的に障害者を比較できる方法(主に国勢調査による質問)を開発する(簡略版と長文版)ことで合意された。

第2回(2003年1月オタワ、カナダ)調査の目的を満足する調査項目を決定。

第3回(2004年2月ブリュッセル、ベルギー)簡略版の目的として機会均等が採用された。

第4回(2004年9月バンコク、タイ)簡略版の案が概念的に了解され、質問内容が改定され、正当であることが認められ、試験実施のプロトコルが完成した。

第5回(2005年9月リオ・デ・ジャネイロ、ブラジル)簡略版の質問内容、事前調査計画、事前調査プロトコルを各国に周知し、その結果を各国からフィードバックしてもらった。

第6回(2006年10月カンパラ、ウガンダ)簡略版の内容、その正当性、実施プロトコルの改訂が提案された。

第7回(2007年9月ダブリン、アイルランド)簡略版が採用された。また、拡張質問セット開発がはじまった。

○第7回ダブリン会議の成果は、次の通りであった。

- ・拡張セットの開発方法に関して次の合意が得られた

①「機能」の領域を数を増やす、②それぞれの「機能」の領域における情報の種類と量を増やす、③他の作業グループで用いている質問項目を組み込む。

・他のグループ（ブダペスト・イニシアティブ(BI)、EU 統計局(EUROSTAT)、国連アジア太平洋経済社会委員会(UNSCAP)）との共同作業を行うことと、その共通点を示し、拡張セットの開発の方向づけをするためのマトリクスを開発すること。

・環境を測定するための多因子手法を取り入れること（マクロ、メゾ、ミクロ）。

○ダブリン会議後の成果（拡張セットについて）

・拡張質問セットを方向づけるためのワシントン・グループ・マトリクスが開発された。

・他の作業グループ（カナダ、オーストラリア、ノルウェイ(SINTEF)、アイルランド、EUROSTAT、UNSCAP、タンザニア）が用いている質問項目を組み入れた。

・2008年7月8-10日にWG、BI、UNSCAP、の合同会議が National Center for Health Statistics で開催され、拡張質問セットの開発について議論し、本会議で議論予定の提案がなされた。

○ダブリン会議後の成果（協力について）

・UNSCAPの協力

①World Bank と UNSCAP がスポンサーになっているバンコク会議にWGから2名が参加した。②UNSCAP が、意識調査および実地調査において域内の6カ国のスポンサーになることに合意。

○ダブリン会議後の成果（報告書作成について）

・次の報告書を完成した。①障害者団体のための「国勢調査から得られた障害に関する情報」、②NSOのための「国勢調査のための国際比較可能な方法」、③「国連障害者権利条約のモニタリング」

・「WG 簡略質問版を用いて測定する障害についての理解と解釈」の報告書の草案が完成

○第8回会議の予定

・会議の焦点は拡張質問セットの開発に置く。

①提案予定の拡張質問セットに関して合意したい。②他の可能な質問セット（たとえば、環境要因等）の開発について議論したい。

・拡張セットの認知テスト及びフィールド・テストの実施計画を議論したい。

・テスト結果の分析の準備をする。

・テスト後の実施内容を議論する。

(3)9:45-9:50 事務連絡

[内容] コーヒーなどの用意、食事の場所、インターネットの利用、夕食会のお誘い、観光やショッピングについての情報提供。

(4)9:50-10:00 参加者紹介

[内容]参加者全員の名前が呼ばれ参加者が挙手

10:0-10:15 休憩

セッション2 拡張質問セット(Extended question sets)の開発について

(1)10:15-10:30 本セッション概観

発表者：ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

・本セッションは、拡張質問セットの開発がテーマである。

・拡張質問セット開発の目的と目標をマトリクスを使って説明する。このマトリクスは、セット開発の基礎を提供し、また、それを誘導するために用意したものである。さらに、このマトリクスは、開発するセットの数が正しいことの根拠ともなっている。

・ブダペスト・イニシアティブ(BI)、EU統計局、UNESCAP と他のグループとの協同の正当性についても取り上げる。

・拡張測定セットのワークグループは、それから、される質問セットとアプローチを展開するのに用いられるフレームワークを提示する。

(2) 10:30-11:15 am 拡張質問セット開発の背景と準拠原則 (資料3)

発表者：マギー・シュナイダー (Margie Schneider, South Africa)

① 拡張セットの背景と目的

・拡張セットの目的は、機会均等である。

・拡張セットは、ショートセット以上にスペースの余裕があり、より質問が可能な調査において用いられる。

② マトリクス：発展のための構造

・マトリクスは、はじめは、2007年の9月の第7回ワシントングループ会議の後、より大きな文脈や見通しにおいてワシントングループが仕事をするために設計された。

・マトリクスは、拡張セットのための作業を方向づける。

③ 現在提案されている拡張セット

・2008年7月にワシントンで開催され、拡張セットのワーキンググループとブダペストイニシアチブから多くの人が参加した会議の成果である。

・このセットの基礎は、人々の経験、数年にわたるICFに基づく調査、ワシントングループのショートセットとブダペストイニシアチブのために実施された認識テスト、および、会議による熟考に基づいて作られた。

・ここで示されたセットは、最終版ではない。今後のこの会議での認識テストや国際的なフィールドテストを経て完成される。

・拡張ショートセット：これは、6つの質問に加えて2つの領域から1問ずつ追加されたものである。

・拡張セット：これは、拡張ショートセットに含まれた領域に加えて、追加の領域(感情、痛み、疲労)や福祉機器の利用や医療の利用を追加した、領域別の複数の質問からなっている。さらに、領域を追加することも可能である。

(3) 11:15-11:45 am マトリクスの導入と拡張質問セットの基礎について (資料4、5、6)

発表者：ミッチ・ロエブ (Mitch Loeb, USA)

・国勢調査に用いるための障害に関する6つの質問セット(ショートセット)が、障害統計に関するワシントングループにより新しく開発され、テストされ、採択された。

・次のステップは、国勢調査を超えて、統計調査に焦点を絞ることである。

・ショートセットの質問をどのように拡張し、大規模な統計調査や大規模な障害統計調査に用いることができるように拡張できるかを決定する必要がある。

・開発には、①基本領域を拡大していく、②各領域の質問数を増やす、③環境要因を加える必要がある。

・基本的活動は、次の通り。1. ○見る、2. ○聞く、3. ○移動、4. ○コミュニケーション、5. ○認識、6. 上半身、7. 学習、8. 感情、9. 痛み、10. 疲労。

・複雑な活動は次の通り。1. ADLとIADL（○入浴、衣服の着脱、トイレ、家事、買い物）、2. 社会関係（友人をつくる、友情を維持する、見知らぬ人や目上の人との交流）、3. 生活活動（学校に行く、就職と職業継続）、4. 社会参加（社会活動、宗教活動、市民活動）○印は、ショートセットにある。

(4)11:45-12:00 pm 昼食後のセッション2に関する議論とセッティングについて

発言者:マギー・シュナイダー(Margie Schneider, South Africa)

・午後は、グループに別れて、今回提案された拡張セットの各質問項目の文化的妥当性を検討する。たとえば、翻訳したときに同じ意味になるかというようなこと。

12:00-1:30 pm

Lunch

昼食

セッション2：拡張質問セットの開発（続き）

小グループに分かれて、今回提案された拡張セット（資料6）の各質問項目の文化的妥当性を検討する。

報告者：フィリピン統計局（NSCB, Philippines）；コーデル・ゴードン(Cordell Golden, USA)

(1)1:30- 3:00 pm 提案されている拡張質問セットについて

発言者:マギー・シュナイダ(Margie Schneider, South Africa)

(2)3:00-3:15 pm グループワークの準備

発言者: ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

(3)グループワーク

4人程度のグループに分かれて、今回提案された拡張セットの各質問項目の文化的妥当性を検討した。

3:15-3:30 pm 休憩

(4)3:30-5:30 pm 各グループからの報告

質問1-6までについて、各グループからの報告のあと、各国の代表者が、質問の表現について、意見を述べた。あまり、意味のある意見はなかった。

7:00-9:00 pm フィリピン統計局主催による歓迎夕食会

オリジナルの民族舞踊など披露。

2008年10月30日（木）

セッション2：拡張質問セットの開発（続き）

このセッションでは、拡張セットに関する各グループからの報告の続き、それに関する議論とそのまとめ、次のステップについての議論が行われた。

司会：ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

報告者：フィリピン NSCB 代表; コーデル・ゴールドデン(Cordell Golden, USA)

(1)8:30-9:45 am 質問7-10の報告

質問7-10までについて、各グループからの報告のあと、各国の代表者が、質問の表現について、意見を述べた。あまり、意味のある意見はなかった。

(2)10:00-10:15 am 写真撮影

10:15-10:30 am 休憩

(2)10:15-11:00 am

議論のまとめと今後の議題について解説。

発表者: マギー・シュナイダー(Margie Schneider, South Africa)、ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

セッション3: 認知テストとフィールドテスト

ワシントングループで開発された質問セットを用いて UNESCAP 地域で実施された障害者統計プロジェクトについて、ワシントングループのメンバー国の代表者から、拡張セットと認知テストのフィールドテストについて報告があった。

議長: ゲリー・ブラアディ(Gerry Brady, Ireland)

11:15-12:00 am

1) 認知テストについて

発表者: ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

良い認知テストの設計方法、認知インタビューの理念と方法、質問内容、データ分析など、一般的な知識についての講義と、ワシントングループにおける認知インタビューの概要について説明があった。

11:00-12:00 pm

2) フィールドテストのプロトコル (資料7)

発表者: ケン・ブラック(Ken Black, Australia) と マギー・シュナイダー(Margie Schneider, South Africa)

UNESCAP で実施された障害者統計プロジェクトで実施された内容の報告があった。実施は、①拡張セットの翻訳、②認知テスト、③フィールドテスト、④調査/再調査という4つのステップで行われた。

フィールドテストでは、ワシントングループのショートセット、拡張セット、WHODASII から選んだ質問、ABS の 'Need for Assistance' questions から3問、および、実施国に特有の質問により構成された。

12:00-1:30 pm

昼食

セッション4: 調査に関する方法論の問題

このセッションは、代理回答、子供と施設入所者への質問の開発などワシントングループが常に直面している方法論的な問題をまとめている。さらに、障害者組織と全国的な統計事務所へワシントングループの質問セットを導入する方法、障害者権利条約のモニタリング、および、ショートセットを利用する方法について提起された。

司会: アリシア・バーコビッチ(Alicia Bercovich, Brazil)

1:30-2:00 pm

1) ワシントングループ調査の方法論に関する重要な問題とワシントングループの文書の提示

発表者: ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

ワシントングループの紹介として、組織の性格、目的、実施内容などについてまとめた3つの文書が紹介された。

- ① WG Report to DPOs
- ② WG Report to NSOs
- ③ Monitoring the UN Convention
- ④ Understanding and Interpreting Disability

セッション5: ワシントン・グループの協力活動の最新情報 (資料8)

このセッションは、UNESCAPと世界銀行の活動の報告、ブダペスト・イニシアティブの質問項目に関する最近の調査結果の分析と、アイルランドの国勢調査から結果の更なる分析に関する報告があった。

司会: パメラ・ナブクホンゾ(Pamela Nabukhonzo Kakande, Uganda)

2:00-3:00 pm

1) UNESCAP

発表者: ハイシャン・フー(Haishan Fu, UNESCAP) & ケン・ブラック(Ken Black, Australia)

2) ワールドバンク/ブダペストイニシアティブ/WHO-FIC

発表者: ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

3) アイルランド国勢調査

発表者: ゲリー・ブラディ(Gerry Brady, Ireland)

3:00-3:15 pm

休憩

セッション6: 各国からの報告 (資料9)

このセッションでは、ワシントングループのショートセットを用いて障害者調査を実施した国々から、実施報告があった。また、各国の今後の予定についても発表があった。

議長: マギー・シュナイダー(Margie Schneider, South Africa)

3:15-3:30 pm

1) 各国の報告のまとめ

発表者: コーデル・ゴールドデン(Cordell Golden, USA)

3:30-4:30 pm

2) 各国の報告

発表者: 各国の代表者

Friday, October 31, 2008

セッション7: 利用できる基金

公式統計研究に利用できる可能性のある基金: EUのフレームワーク・プログラム7。
EUの第7回フレームワーク・プログラムの概要とその資金による研究を通してワシントングループの目的を推進できると期待される内容が示された。

司会: ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

9:00-10:00 pm

1) EUの第7回フレームワーク・プログラムとワシントングループの資金としての期待

発表者: ハシーム・マナン(Hasheem Mannan, Trinity College Dublin, Ireland)

9:30-9:45 am

休憩

セッション8: 今後の予定と第9回タンザニア会議の目的

運営委員会委員長の障害者回出、ワシントングループの運営の現状について検討された。
具体的には、第8回会議の成果、第9回会議の日程・場所・目的、第10回会議の主催者の依頼、閉会のあいさつであった。

司会: ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

報告者: NSCB, Philippines

9:45-10:30 am

発表者: ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

セッション9: 拡張質問セットの今後

拡張セットの実施方法、データ分析、方法上の問題に関してワーキンググループの検討。

議長: ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

報告者: NSCB, Philippines

10:30-11:30 am

発表者: マージー・シュナイダー(Margie Schneider, South Africa) & ミッチ・ロエブ(Mitch Loeb, USA)

11:30-12:45 pm

昼食

Session 10 - 閉会式

司会: ジェニファー・マダンス(Jennifer Madans, USA)

報告者: NSCB, Philippines

12:45-1:00 pm

発表者カルメルタ・ミ・エリクタ(Carmelita N. Ericta, Administrator, National Statistical Office, Philippines)

Report of the Washington Group (WG) on Disability Statistics: Executive Summary of the 7th Annual Meeting

Purpose:

The main purpose of the WG is the promotion and co-ordination of international co-operation in the area of health statistics by focusing on disability measures suitable for censuses and national surveys. The aim is to provide basic necessary information on disability which is comparable throughout the world. More specifically, the WG aims to guide the development of a short set(s) of disability measures, suitable for use in censuses, sample-based national surveys, or other statistical formats, for the primary purpose of informing policy on equalization of opportunities. The second priority of the Washington Group is to recommend one or more extended sets of survey items to measure disability, or guidelines for their design, to be used as components of population surveys or as supplements to specialty surveys. These extended sets of survey items are intended to be related to the short set(s) of disability measures. The WHO International Classification of Functioning, Disability and Health (ICF) has been accepted as the basic framework for the development of the sets. All disability measures recommended by the group, short or extended, will be accompanied by descriptions of their technical properties and methodological guidance will be given on their implementation and their applicability to all sections of the population. The WG will disseminate work products globally through the world-wide web (<http://www.cdc.gov/nchs/citygroup.htm>) and scientific presentations.

Year organized: 2001

Participants:

Representatives of national statistical offices, international organizations, organizations representing persons with disabilities, and other non-government organizations have participated in the last 6 meetings.

Current country representatives include (from national statistical offices): Albania, Argentina, Australia, Austria, Armenia, Barbados, Belgium, Bermuda, Bolivia, Brazil, Cambodia, Canada, Chile, China (Hong Kong Special Administrative Region, Macao Special Administrative Region, and Mainland), Columbia, Cuba, Czech Republic, Democratic Republic of Congo, Denmark, Egypt, Finland, France, Gambia, Ghana, Greece, Guatemala, Hungary, India, Iran, Iraq, Ireland, Israel, Italy, Ivory Coast, Japan, Jordan, Kenya, Latvia, Lebanese Republic, Lesotho, Lithuania, Malawi, Mauritius, Mexico, Micronesia, Mongolia, New Zealand, Norway, Occupied Palestinian Territory, Panama, Paraguay, Peru, Philippines, Poland, Romania, Serbia and Montenegro, Sierra Leone, Slovenia, South Africa, Spain, Saint Lucia, Sweden, Syria, Tanzania, Thailand, The Netherlands, Turkey, Tonga, Trinidad, Uganda, United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland, United States of America, Venezuela, Viet Nam, Zambia, and Zimbabwe.

Current non-government organizations include: European Disability Forum, Rehabilitation International, Inter-American Institute on Disability, EUROSTAT, International Labor Organization, Organization for Economic Cooperation and Development, National Disability Authority-Ireland, Inter-American Development Bank, International Development Project, World Bank, World Health Organization, United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific, United Nations Economic and Social Commission for Western Asia, United Nations Economic Commission of Europe, and United Nations Statistics Division.

Governmental Organizations of Persons with Disabilities: Coordenadoria Nacional para Integração da Pessoa Portadora de Deficiência (CORDE) in Brazil, Secretaria Nacional para la Integración de las personas con Discapacidad (SENADIS) in Panama, and Disabled Organization for Legal Affairs and Social Economic Development (DOLASED) in Tanzania.

Meeting Summaries / major outcomes:

First meeting: February 18-20, 2002 in Washington, DC, USA

It was agreed that: 1) it is important and possible to craft a short set/s of internationally comparable disability measures; 2) short and long set(s) of measures that are inter-related are needed; 3) the ICF model will be used as a framework in developing disability measures; and 4) census questions are the first priority.

Second meeting: January 9-10, 2003 in Ottawa, Canada

A link was established between the purpose/s of a short measure on disability and aspects of measurement. A conceptual matrix was developed linking the purpose of a short disability measure with conceptual definitions and question characteristics. An empirical matrix was developed evaluating the characteristics of short set(s) of disability measures currently in use according to the dimensions of the conceptual matrix. Both matrices helped the WG to identify gaps in disability measurement.

Third meeting: February 19-20, 2004 in Brussels, Belgium

Since disability is multidimensional, it is not possible to ascertain the single "true" disabled population. Different purposes are related to different dimensions of disability or different conceptual components of disability models. Equalization of opportunities was selected as the purpose for which an internationally comparable short disability measure would be developed. A workgroup was designated to generate a draft set of questions related to this purpose. In addition, two other workgroups were formed to propose methods for implementing the short set and to propose an approach for developing extended measurement sets related to the short set. Finally, a plan for WG governance was adopted.

Fourth meeting: September 29-October 1, 2004 in Bangkok, Thailand

Major outcomes of the 4th WG meeting were: 1) conceptual agreement on a draft set of questions for the general disability measure, but wording revisions were required prior to pre-testing; 2) formation of a new workgroup operating in conjunction with a consultant

to develop six implementation protocols for pre-testing the short set of disability measures; 3) begin development of the first extended measurement set; and 4) formation of a new workgroup on methodological issues.

Regional workshops: 1) June 20-22, 2005 in Nairobi, Kenya; 2) September 19-20, 2005 in Rio de Janeiro, Brazil

The Washington Group held two regional workshops in 2005, in Africa and Latin America, primarily directed toward countries in the region who were interested in including disability questions in their national censuses. The workshops familiarized countries in the region with the short set of WG questions on disability, the accompanying rationale, and the procedures for pre-testing the questions.

Fifth meeting: September 21-23, 2005 in Rio de Janeiro, Brazil

Revisions were suggested for the short measurement set, the accompanying rationale, and the implementation protocols. A new workgroup was formed to plan and implement analyses of the WG pre-tests. All results pertaining to the six WG questions will be considered by the new workgroup including the WG sponsored pre-tests, the WHO/ESCAP test, and other testing activities.

Sixth meeting: October 10-13, 2006 in Kampala, Uganda

Based on the outcomes of the pre-tests, the WG endorsed the six question set for use in censuses. The set comprises questions on four core functional domains (seeing, hearing, walking, and cognition) as well as two additional domains desired by member countries (self care and communication).

Detailed analyses of the pre-test data were presented at the meeting, however as there was much more analytical work that can be done that would be informative, the methodological workgroup merged with the data analysis workgroup to address three specific issues:

- 1) Portability of questions across administration modes;
- 2) How the questions work for specific subpopulations such as those with severe disability, children, or the institutionalized population; and
- 3) The use of proxy informants.

The workgroup on extended measures was charged with self-organizing in order to accomplish their work, and drafting a position paper specific to developing the first extended set with a purpose of equalization of opportunities. The paper was to include a plan and approach (blueprint) for carrying out development of the extended set including the purpose, rationale, and justification for the extended set as well as the issue of international comparability. The group was charged with adding questions on the existing domains and adding domains as appropriate to assess equalization of opportunities. The group was to review and select existing questions and pre-test the question set if time permits.

Seventh meeting: September 19-21, 2007 in Dublin, Ireland

The seventh meeting was hosted by the Central Statistics Office Ireland (CSO) with assistance from the National Disability Authority (NDA). The meeting was attended by 58 persons;

- 25 representing national statistical authorities from 22 countries (Austria, Bermuda, Brazil, Canada, Czech Republic, Cambodia, Estonia, France, Greece, Hungary, India, Ireland-3, Italy, Latvia, Lithuania, Mexico, Norway, Poland, Slovak Republic, Slovenia, Sweden and Uganda-2);
- 4 representatives from the National Center for Health Statistics;
- 22 representatives from national institutes of public health or other national research bodies or ministries (Belgium-2, China, Czech Republic, Denmark, France, Finland, Ireland-5, Italy, Japan, Kenya, Slovenia, South Africa, Spain, Tanzania, The Netherlands-2, United Kingdom);
- 7 representatives from international organizations (UNSD, UNESCAP, World Bank, WHO, UNECE, Eurostat, European Disability Forum)

Objectives for the 7th WG meeting were to:

- 1) Present additional work on the short set:
 - Present results of additional pre-testing
 - Present results of additional analyses of pre-test data
 - Present any revisions to original six questions
 - Present work on use of short set as a screener
 - Present option for measuring upper body function
- 2) Present a proposal for the extended set and test results if available.
- 3) Discuss strategic issues.

Objectives for the seventh meeting emanated from work presented at the sixth meeting. Three workgroups were to address these major topics.

Workgroup 1 considered minor revisions to the short question set. In addition, the group addressed the development of an alternative (optional) question on upper body function.

- 1) At the 6th WG meeting the representative from Viet Nam raised a concern about false negatives, i.e. people who were unable to do some task but responded as having 'no difficulty' on the short set, only to be discovered as having a large difficulty on the extended sets.

This issue was addressed by analyzing data on vision in the 2002 National Health Interview Survey (NHIS) in United States which contained questions similar to the WG, as well as several follow-up questions. The analysis found that eye disease does not appear to be related to degree of activity limitations. Some people with one or more eye diseases indicated no problem seeing. Furthermore, it was found that the proportion of false positives is higher than false negatives – i.e. more people respond yes to the main question and no to extended questions than visa versa. Explanations for the results were that some of the extended questions reflect a possible overlap of physical and visual limitations (i.e. questions related to going down steps and driving); and heterogeneity among respondents in terms of their tolerance for (and willingness to indicate) difficulty.

Future analysis was called for to:

- Control for other functional limitations
- Control for eye diseases captured in survey
- Examine results within age context
- Further elaboration of answer patterns (short vs. extended) and the characteristics of respondents who report the different patterns

Conclusion: The concern about false negatives on vision was found not to be a significant problem based on results from the USA data.

- 2) At the 6th meeting the workgroup was charged with the responsibility to assess improvements and additions to Short Set:
- Find a solution to the vision clause problem
 - Consider the length of the communication question
 - Provide a question on upper body functioning for countries that might prefer to have that measure.

Conclusions:

Vision clause: Instruct countries to translate the phrase in a way that is culturally appropriate to capture the idea in the question – it is not necessary to translate the question word for word, but to convey the idea that difficulty seeing must be present even if the respondent is using corrective lenses of any type.

Length of Communication question: The introductory clause is to be used to introduce the whole set of questions rather than just the last one.

Reformat the communication question as follows:

Using your usual (customary) language, do you have difficulty communicating; for example understanding or being understood?

Additional Upper Body Question: Upper body measurement focuses on 4 actions: pushing or pulling heavy objects, lifting 10 pounds or more, lifting arms overhead and grasping or some form of fine motor skill. The challenge in an Upper Body Question then is to limit the domain to one question that includes as many of the 4 actions as feasible while maintaining structural simplicity to compliment the other short set questions and using the same response categories. It would also be desirable to include actions that may be related to employment. Most of the questions currently in use reflect a single action; these were reviewed. ILO has repeatedly requested a question addressing upper body function. It was recommended that the issue of upper body function be dealt with in extended sets and to analyze data upon testing.

Workgroup 2 provided the results of additional analyses of the characteristics of the short set.

- 1) Assessment of how well the WG questions work to identify disabled people for prevalence estimates

Two years ago, cognitive testing began in 15 countries to determine how well respondents understood the questions. Combined analyses were performed on a sample of